

## 瀬戸SOLAN小学校第1学年・学年通信



# かしく・かっこよく

4月に学級活動の時間を使って、とても大切な話をいくつか行いました。

特にこの時期に外せないのは、学校に来る「目的」の話です。

何の為に学校に通い、多くの時間を共に過ごすのか。

これは、「学校」にとっての一丁目一番地となる超重要項目です。

1年どころか、小学校生活 6 年間で貫く重要な話だからこそ、4月のスタートに伝える内容から外すことができません。

まず、問いました。

「学校は何をするところですか？」と。

すぐさま子どもたちからは、

「勉強！」

との即答が返ってきました。

その通り。

学校とは勉強をする場所です。

勉強をすると、分からないことが分かったり、出来ないことが出来るようになったりします。

つまりは、「かしく」なるために学校に来ています。

学校に来て、賢くならず馬鹿になってしまうのなら、学校には来ない方がいいでしょう。

学校という場所は、勉強をして、みんなが賢くなっていく為にあります。

だから、学校に来ている間にほんの少しでも何かを学び、朝来た時よりもわずかでもいいから成長して家路についてほしい。

その様に願っています。

そのために、私たちも力を余すことなく出したいと思っています。

学校に来る目的の第一は、「かしこく」なること。  
この事を簡単にホワイトボードに書き、まず全員で確認しました。

ただし。

かしこくなるだけでは十分とは言えません。  
学校には、もう一つ大切な目的があります。  
子どもたちには、ここで立ち止まって一度考えてもらいました。  
大切な目的の2つ目。  
それは、一体何なのでしょう。  
次のように教えました。

学校に来る目的の第二は、「カッコよく」なること。

まず大前提として「格好良く」とは、外見を指している訳ではありません。  
日本語の中で外見を指して使われるようになったのは実は最近のことで、  
この言葉のもともとの意味は「ふさわしい」という意味です。  
1年生にも伝わりやすいように「ピッタリ」という表現も使いました。

では、何においてふさわしく（ぴったりと）なることが求められるのか。  
みんなにとっては、それは当然「小学生として」という冠がつかます。  
幼稚園や保育園時代を卒業し、みんなは晴れて「小学生」の仲間入りを果たしました。

その小学生という立場に「ぴったり」とはどのような姿か。  
また、今年は生まれてから7年目を迎える年でもあります。  
赤ちゃんの頃とは違い、幼稚園や保育園の頃とも違い、約7年の歳月を歩んできたからこそできることがきっとあるはずです。  
ここに「ふさわしく」、「ぴったり」となっていくとはどのようなことか、ぜひ考えてみてください。

そのことを考えるのにぴったりの絵本があります。

「おおきくなるっていうことは」という本です。  
図書館の吉賀先生に頼んでおいたので、近々図書室にも入る予定です。

この中には、次の文章があります。



「おおきくなるっていうことは、じぶんよりちいさなひとがおおくなるっていること」

さらに、こんな続きもありました。

「おおきくなるっていうことは、ちいさなひとにやさしくなれるっていうこと。」

去年より、一つ大きくなったみんなには、自分より小さな人が増えました。そして、そんな小さな人たちに優しくなれるということが、大きくなったことにふさわしい、かっこいい生き方なのだと思います。

つまり「かっこよく」とは、頭や体の成長とは別に、「心」の成長を指します。

「心を磨くんだよ」という表現は難しいので、あえて誰にも分かりやすいように「かっこよく」という言葉を使うことにしました。

心は目に見えませんが、色んな所に行いや言葉や振る舞いとして現れます。イライラしてつい手を出していた人が、グッと我慢ができるようになったりすること。

ビクビクしていつも引っ込みがちだった人が、思い切ってチャレンジができるようになったりすること。

なんでも「当たり前」だと思って荒々しく物を扱っていた人が、いろんなことに「ありがたい」と感謝し丁寧に扱えるようになったりすること。

散らかっていたロッカーや机がきれいに整頓できるようになること。

いただきますやごちそうさまを丁寧に言えたりすること。

揃うことが少なかったスリッパが美しく並ぶようになること。

そして、自分のことだけを考えていた人が、誰かのために動けるようになったりすること。

これらは、すべてカッコいい姿です。

大きく成長した姿としてふさわしい生き方です。

もちろん、他にもカッコいい姿はたくさんあることでしょう。

ぜひ、自分の思うカッコいい姿を、生き方を追究してほしいと願っています。

ちなみに「カッコいい」を凶る物差しは、いくつかあります。

中でも、私が特に大事だと考えているのは次の3つです。

- ① 「同じ」を求めるのではなく、「違い」を認められる。
- ② 「1つの見方」だけでなく、「色んな見方」ができる。

③ 「自分の喜び」だけを喜ぶのではなく、「人の喜び」を喜べる。

この 3 つについては、追々詳しく述べていくチャンスがあると思います。

いくら勉強や運動ができるようになったとしても、この「心」の部分をおざりにしてしまっているのでは、真なる「成長」につながりません。

蓄えた知識を使って人を陥れたり、磨いた力や技を使って人を傷つけてしまっているのでは本末転倒だということです。

先日お伝えした「物の目的」とも重なることですが、目には見えない心を高め、磨いていくことが、成長の上では欠かせません。

かしこくなること。

そして、カッコよくなること。

1年間、みんなと共に追いつけていきます。



(写真は先週行った避難訓練でのものです。静かに素早く移動する姿にも心の成長を感じました。カッコよくて美しい姿でした。)

(文責：渡辺道治)

[1学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](#)